

家畜で5例、野生イノシシ80頭 豚コレラ 止まらぬ

3例目となった岐阜県畜産研究所の防疫作業（県提供＝美濃加茂市で）



岐阜県で、豚コレラの発生が止まらない。家畜での発生は5例中3例が県や岐阜市の公的機関で、吉川貴盛農相は農水省に対し、岐阜県への指導を強化しよう、異例とも言える指示を出した。感染した野生のイノシシは22日、愛知県でも見つかり、合計は80頭に上る。続発地帯から外れた場所でも見つかり、岐阜県は総額3億5000万円を予算から捻出し対策を急ぐ。農家では懸命の防疫作業が続く。

岐阜の3例は公的機関 農相 指導強化を指示

今日21日、県庁で開いた、17回目の県対策本部員会議。冒頭、古田肇知事は公的機関での発生が2、3、5例目と過半を占めていることに「大変重く受け止めている」と述べた。

同会議では、公的機関での発生に関して、飼養衛生基準が守られていない事例を提示。2例目の市畜産センター公園は、敷地内から感染した野生のイノシシが出ていたが、重機を洗浄、消毒せずに豚の飼育エリアでも共用していた。3例目の県畜産研究所では、カラスなどの野鳥の侵入があり、ふん便を確認。県ブランド豚の種豚が殺処分となり、安定

基盤の再構築に長期間かかる見通しだ。5例目の県農業大学校は、敷地内にイタチのような小動物のふんがあった。県中部に農場がある生産者は、公的機関での発生については「共に豚を飼う者として、責める気にはなれない。ただ、指導的立場の研究、教育機関での発生は悲しい」と肩を落とす。

ただ、飼養施設での発生や、野生のイノシシへの感染の範囲が広がっていることについては、「たった一つのミスも許されない。これ以上何をすべきか分からないくらい厳しく管理している」と張り詰めた口調で語る。

吉川農相は19日、同省の防疫対策会議で大臣指示を出した。県に対して飼養衛生管理基準の徹底と、定期的な点検の指導の他、野生イノシシの調査捕獲をする人の衛生管理などに関する整備などを打ち出した。

拡大防止へ 県予算捻出

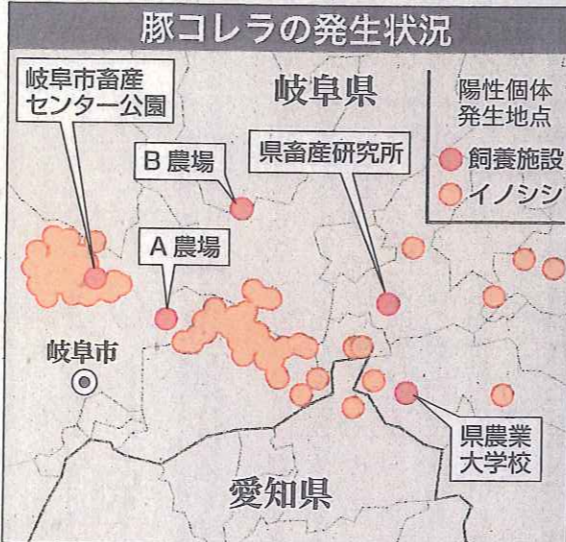
県は、イノシシの検査専用設備を設置するため、旧中央家畜保健衛生所の改修に1億円を措置。家畜の関係者と検査

を完全に分離することで交差感染を防ぐ。また、野生イノシシの有害鳥獣捕獲の拡充で4500万円、32キロに及ぶ防護柵の拡充で2億円を投入する。検査の強化へ25人の獣医師を確保するため、国に応援を求める。

岐阜県を中心とした豚コレラ発生の経緯

- 2018年9月9日 岐阜市の養豚場で1例目が発生
- 14日 野生のイノシシで1頭目の感染確認
- 10月10日 1例目の移動制限解除
野生のイノシシで20頭目
- 11月16日 市畜産センター公園で2例目
- 17日 野生のイノシシで50頭目
- 12月5日 美濃加茂市の県畜産研究所で3例目
- 10日 関市の猟犬訓練所のイノシシで4例目
- 15日 可児市の県農業大学校で5例目
- 22日 岐阜県の野生イノシシで79頭目
愛知県犬山市で感染野生イノシシ1頭目
- 19年1月14日 5例目の移動制限解除予定

※農水省と岐阜県の発表などを基に作成



豚コレラの発生状況